

Ⅲ 英国における動物虐待判例

(RSPCA 機関誌 animal life より 文・写真はすべてRSPCA提供)

1. 犬を世話しなかった女性に禁止命令

2008年、クリーブランドに住む23歳の女性は、彼女の2頭の犬に不必要な苦痛を与えた事を認め、10年間すべての動物を所有することを禁止され、2頭の犬は没収された。

テーシッド治安裁判所は、RSPCA インスペクターが被告の家に行き、2頭のアメリ坎ブルドッグタイプの犬-生後14-16週齢と思われるオスの子犬タイソン（写真）とメスの成犬ゼナを発見したときの状況を審理した。2頭とも、臀部、背骨そして肋骨がはっきりと目視できるほど体重が減少していた。

インスペクターは彼らを獣医師のところに連れて行き、そこで衰弱していると診断された。タイソンは咬み傷が原因と思われる膿瘍があり、またゼナには歯根膿瘍があった。2頭にはさらにノミが寄生していた。彼らは、RSPCA グレイトエイトン・アニマルセンター に運ばれ、そこで回復したタイソンの体重は2週間で65%増え、またゼナは同じ期間で23%増えた。被告はまた条件付免責も受けた。タイソンとゼナは新しい家庭に迎えられた。



2. 納屋に動物たちが置き去りにされた

2008年、ケントに住む一人の女性の庭の納屋から、65体もの死体あるいは死にかかっているペットが発見された後、その女性に生涯動物禁止命令が下された。

メドウエイ治安裁判所は、RSPCA インスペクターがジリ

ングハムに住む被告が以前に住んでいた家の汚い納屋で、41匹のウサギ、20匹のモルモットそ



して4匹のハムスターを発見したときの状況について審問した。10×20フィートの建物には約50個の不潔なケージがあり、それぞれには糞にまみれた死骸あるいは生きている動物が入っていた。

RSPCA インスペクターはアシスタントを呼び、同僚の助けを借りて29匹のウサギを急いで獣医に連れて行った。悲しいことに、残りの動物は死んでいた。3匹はこれ以上の苦痛を与えないために安楽死したが、26匹のウサギは生き残り、新しい飼い主へ譲渡された。

47歳の被告は、引越しをする前に動物を売り、納屋に彼らを置いていったと主張した。しかしながら、治安裁判所は不必要な苦痛を引き起こした罪があると認め、彼女に6ヶ月間の投獄、執行猶予2年の判決を言い渡した。また300時間の無償労働と500ポンドの裁判費用の支払いも命じた。

インスペクターの話：「単に引越しをし、自分のすべての動物を後に残して、このように死なせることの出来る人がいることが信じられません」

3. クライムウォッチが事件を解決した

2008年、北ヨークシャーで小さな車両の中に34匹の猫と7頭



の犬を収容していた1組のカップルがハリファックスの治安裁判所によって4ヶ月間の投獄を言い渡された。

カップルは動物たちに不必要な苦痛を引き起こした15の罪科と彼らのニーズを満たす事を怠ったことに対する罪を認めた。

裁判所は、犬のうちの6頭と34匹の猫がキルビーモアサイドにあるキャンプ場のキャラバンの中でカップルと一緒に生活していた所を発見された状況について審問した。7頭目の犬はキャビンの外の小さなケージに収容されていた。

RSPCA インспекターは、2007年5月17日に初めてキャラバンを訪問し、そこで、10匹の猫が6頭の犬と一緒にキャラバンの中で放されているのを発見した。残りの24匹の猫は、キャラバンの中にある沢山の小さなケージに収容されているのを見つけられた。

動物たちは移されて、開業獣医師の診察を受けた。その獣医師は彼らが収容されていた状況がすべての動物に苦痛を与えていたと確認した。彼らはその後、リハビリテーションと譲渡のために、RSPCA に正式に引き渡された。

その後まもなくカップルは逃亡したが、RSPCA が BBC のクライムウィッチで訴え、それを見た人の情報のおかげで、キャラバンパークのそばで発見され、逮捕された。

2人とも生涯にわたるすべての動物飼育の資格を剥奪された。

4. 馬がフェアで溺死

2008年、カンブリアのアップルビー・ホース・フェアで馬を溺れさせたとして、ロンドンに住む男が、28日間の投獄と5年間の動物の飼育を禁止された。

カーリスルの裁判官は、トテナムに住む22歳の被告に、彼が2007年6月8日金曜日、エデン川の中に馬を引き込んだのは、“明らかにむこうみずな行為” だったと言った。

カーリスル治安裁判所は被告が100ポンドでその日の

朝早く購入し、フェアの終わりに売るつもりであった馬を深い水の中へと強要



し、そこで馬が溺れて苦しんでいる様子を見物人が恐怖のなかでどのように見ていたかを審問した。

検察官は、動物の頭のあたりにあった引き綱が不注意に結ばれていたため、それが馬の鼻と口の周りにすべり落ちてきて、馬にとっては息をするのが困難になったという聞き取りを伝えた。

被告は2007年11月13日にカンブリア警察とRSPCAの徹底的な協働捜査の後、警察官によって逮捕された。

判決の言い渡しの中で、地区裁判官は「究極のスポーツのように、あなたはこの馬を水の中に連れて行った。一方、私はこの行為は馬を死に至らしめるものとしてすべきでなかったことと解する。あなたのむこうみずな行為が馬の苦しみを引き起こし、そしてついに死に至らしめたのです」と言った。

地区裁判官はまた被告に以前裁判審理を欠席したとして14日間の投獄を追加し、さらに2時間裁判所への到着が遅れたことに対してさらなる14日間の同時執行の判決を下した。

RSPCA インспекターの審理の後の話：「心を乱されるケースに対して今回は納得のいく結果でした」

5. 輪ゴムで断尾

2008年、ヘレフォードシャーに住む母親と娘は断尾の罪を認め、ワトフォード裁判所の裁判官によって5年間動物を飼育することを禁止された。

共にボービンドンに住む59歳の母親と彼女の24歳になる娘は、各々400ポンドの罰金と裁判費用として100ポンドの支払いを命じられた。

2人は、3頭の子犬が生後10時間の時に、輪ゴムを使って不法な断尾をしたことを認めた。2人はまた、子犬に対する適切な環境の提供あるいは目や耳の状態に対しての獣医療の提供を怠ったことも認めた。

現在、ワーキングドッグでない限り、犬の断尾することは獣医師を含め全ての人にとって不法行為である。獣医師は、純粋に医学的理由あるいは飼い主がその犬がワーキングドッグとして使用される犬であるという証明を提示することが出来る場合にのみ断尾をすることができる。

6. 引越しの後、猫が残された



2008年、引越しをして自分の猫を置き去りしたブラックバーンに住む男性が、彼の猫ファッジを遺棄したことを認め、100ポンドの裁判費用の支払いと12ヶ月間の条件付免責を課された。

バーンリー治安裁判所は、RSPCA インスペ

クターが、心配した一般人からの通報を受けて、29歳の被告が以前住んでいた家に行った時、どのような状態であったかを聴取した。建物はRSPCAによって6日間封鎖されたが、その間その封鎖は壊されずに残った。ファッジは開いている窓から自分自身で出たり入ったりし、近所の住民が彼に餌を与えていた。

インスペクターの話：「この男がしたことは、完全に無責任な行為です。人々は法律のもと、自分たちの動物のニーズを満たさなければならず、それを怠ることは犯罪なのです。幸運なことに、私たちがファッジを発見したとき、彼は良い健康状態でした。しかし、もし私たちに電話がなかったら、またご近所のサポートがなかったら、違う結果になっていたでしょう」

7. 新しい法律でウサギが救われた

2008年、スタフォードシャーに住む一人の女性は、自分の2匹のウサギに不必要な苦痛を与えたことを認め、全ての動物の生涯に亘る飼育を禁止された。タムワース治安裁判所は、スノーウィとサムに関してRSPCAから証言を聞いた後、タムワースに住む46歳の被告に判決を下した。2匹のうちの1匹は、大変な過長歯であり、また2匹とも敷きワラがほとんどなく、わずかしかない水と餌という最

低レベルの生活環境であった。

被告は、動物福祉法のもとで、ウサギの歯を切る事を怠ったため

に不必要な苦痛を引き起こし、不適切な状況で彼らを飼育して、ウサギのニーズを満たさなかったという2つの罪科を認めた。

被告はまた2年間の条件付免責を課され、裁判費用のために307ポンドの支払いも命じられた。

スノーウィとサムは、正式にRSPCAに引き渡され、回復後、新しい飼い主のもとに譲渡された。

RSPCA インスペクターの話：「ウサギは沢山の世話と日々の配慮を要求します、もしあなたがこれらを提供できないのなら、あなたは動物愛護団体の助けを求めるか、もしくは彼らのために、新しい飼い主を探す努力をしなければなりません」



8. 世話をされず放置され、死が間近に迫った犬

2008年、ノッティンガム在住の女性は5頭のジャーマン・シェパードの世話を怠ったことを認め、生涯にわたる全ての動物の所有禁止・70日間の執行猶予が言い渡され、12ヶ月間の社会監察命令が下った。

ノッティンガム治安判事は、RSPCAからバスフォードにある被告の家で犬を発見したいきさつを聴取した。ノッティンガムシャー警察の協力を得て、インスペクターは犬たち



を保護し、直ちに獣医師の下に連れて行った。

犬たちはとても瘠せていて、糞尿にまみれていた。中でも、タイガーという名の犬が最もひどい状態であった。彼女は1歳少々だが、衰弱していて身体は下痢に覆われ、獣医師によると、死まで後2日ほどであったようだ。動物病院ではタイガーは座っていることができず、平らに横になっているしか出来なかった。一度立っても、数歩で倒れてしまった。彼女は11.2キログラムしか体重がなかった。これは同じ年齢の健康なジャーマン・シェパードのほぼ半分の体重である。タイガーは、フードを与えられ、シャンプーをされて、点滴を受けた。獣医師は彼女に高カロリー食を1日5・6回に分けて与えた。

タイガーは、1ヶ月でほぼ体重が2倍になり、他の3頭と同じように、新しい家庭に迎えられた。悲しいことに、5番目の犬は亡くなった。

9. ホーダーが動物を取り上げられる



2008年、サセックス州在住の男性が、飼っていた100頭以上の動物の世話をせずに放置したことを認め、向こう5年間全ての動物の飼育を禁止された。イーストボーン治安判事は、イーストボーン在住の60歳の被告が100頭以上の鶏・ウサギ・モルモットをどのように飼育していたかを聴取した。動物たちはRSPCAへの通報によって発見された。被告は360ポンドの罰金と250ポンドの費用の支払い及び5年間の全ての動物の飼育禁止を言い渡された。全ての鶏、ウサギ、モルモットはRSPCAに引き取られた。残念ながら、数頭の動物は獣医師のアドバイスで安楽死をせざるを得なかったが、残りの全ての動物は新しい飼い主に迎えられた。チーフインスペクターは「これは限度を超えた数の動物を飼育して、適切な世話ができなかった事例だった」と語った。

10. 7頭の馬が苦痛を受けた

2008年、ミッド・グラモルガン在住の男性が、7頭の馬の福祉に必要なニーズを確保しなかったことを認め、生涯にわたる馬の飼育禁止と5千ポンドの費用の支払いを言い渡された。マウンテンアッシュ在住の38歳の被告がヘレフォード治安判事の下に現れたときには、動物福祉法2006第9条に基づく4つの容疑がかかっていた。



RSPCA インスペクターは、ヘレフォードシャー・レッドベリー近郊のブルムズベローにあるラッセルズエンドファームの牧場を訪れ、7頭のウェルシュ・マウンテイン・ポニーが著しく痩せていて、獣医師のケアが必要な状態であることを発見したときの状況を証言した。馬たちは被告の所有であった。

2頭は獣医師のアドバイスによって安楽死をせざるを得なかったが、残りの馬たちはヘレフォードシャーにあるブランズビー・ホーム・オブ・レスト・フォー・ホースに保護した。

インスペクターは「彼が生涯、馬を飼育できなくなったことはとても良かったと思う。かなりの期間馬たちは不必要な苦痛を受けていたのだから。動物の飼い主は、動物たちに獣医療的ケアを確保する義務がある。特に何かいつもと違う兆候が見えたら、獣医師の診療を受けさせなければならない。RSPCAとして、この事件に関してずっとサポートしてくださったブランズビー・ホーム・オブ・レスト・フォー・ホースに感謝したい」と語った。

11. 劣悪な繁殖に対して生涯の飼育禁止



2008年、ノッティンガムシャー在住のビジョンフリーゼを繁殖販売していた女性2人は、動物福祉法2006に対するいくつもの違反を認め、生涯にわたる動物の飼育禁止を言い渡された。また、ダービー治安判事はロング・イトン在住の30歳の被告と44歳の被告にそれぞれ200時間の社会奉仕とRSPCAのコスト750ポンドの支払いを命じた。

2〜7歳の6頭の犬と、5ヶ月齢の3頭の子犬が飼育されていた。被告たちは、犬が痩せて、毛はマット状、爪も伸びすぎているという治療の必要な状態にもかかわらず放置した。どの犬も全て毛がひどいマット状になり、顔を被い、特にパーティーとデイジーはマット状の毛が目被いほとんど見えない状態であった。

RSPCA インスペクターは「このような不快と苦痛のうちに犬を放置することに対するどんな言い訳も認められない」と言った。

名前をここに書けないティーンエイジャーも同じく罪を認め、5年間の動物の飼育禁止と費用200ポンドの支払い、9ヶ月間の youth offending report を言い渡された。

12. 夫婦に飼育禁止

2008年、エセックス在住の夫婦が、彼らが飼育していた鳥たちの世話をしなかったとして鳥類・爬虫類・昆虫

類の飼育を生涯禁止された。

44歳の夫と48歳の妻は猛禽類を集めていたが、その飼育管理は劣悪で、家のとても汚い小さなケージで飼っていた。

夫婦はそれぞれ2ヶ月の保護観察・執行猶予1年と費用2,844ポンドの支払い、夫は100時間、妻は60時間の社会奉仕を言い渡された。

13. ゴルフクラブで殴った男性が5年間の禁止令を受けた



2008年、シェフィールドに住む男性が、彼の犬、オスのジャックラッセルテリアが吠えたため目が覚めてしまったとゴルフクラブで殴ったことを認め、5年間の全ての動物の飼育を禁止された。ベンという名のその犬は、その攻撃で頭蓋骨を複雑骨折した。

ウエストフィールドに住む42歳の被告はシェフィールド治安裁判所に出廷し、彼はまた、3ヵ月間、夜8時から朝7時の間の夜間外出禁止の判決を言い渡され、300ポンドの訴訟費用支払いを命令された。

RSPCA のチーフ査察官の話：「これは生命に関わる外傷で、残忍な攻撃だ。ベンは単に犬がすること一吠える一をしたというだけで、結果的に広範囲な手術と治療を受けなければならなかった。この対応は完全に不当である。彼はベンを殺していたかもしれない」

ベンは頭部のでっぺんに2つの深い裂傷を受けていたので、痛みを軽減、検査そして入院のために地域の動物病院に連れて行った。レントゲンには外科手術が必要な2か所の頭蓋骨骨折が確認された。

ベン RSPCA に正式に引き渡され、十分に回復したあと譲渡された。

14. やけどを負わされた子犬が譲渡された

2008年、ケントに住む一人の女性は、偶発的に熱湯がかかり、やけどで苦しんでいた自分の6週齢の黒のラブラドルの子犬をそのままにして、不必要な苦痛を与えたことを認めた。



ブロムリーの治安判事は、ブロムリーに住む34歳の被告が、偶然にもその子犬に沸騰した



水をひっくり返し、その後、治療のために子犬を獣医師に診察してもらうことをしなかった状況を審問した。

RSPCA 査察官（写真）は、子犬をすぐに獣医師のところに連れて行き、そこで子犬は3週間の集中治療を受けた。

インスペクターの話：「心配した人から我々が連絡をもらった時には事故から5日経っていたが、飼い主には子犬を獣医師のところに連れて行くという意思が依然としてなかった」

被告は2年間の条件付免責と250ポンドの訴訟費用の支払いを命ぜられた。子犬はその後、RSPCAによって、素晴らしい家庭を見つけてもらい、今はパーティーと呼ばれている。

15. 判決と資格剥奪が延長された

2008年、RSPCA がかつて調査した中でも最も残虐であった闘犬において、その審査員をしていた一人の男性の6か月間の投獄判決が延長され11か月間になった。ちょうど5ヶ月前に、不必要な苦痛を与えたこと、闘犬で手伝いをしたこと、そしてピットブルテリアを所有したことに對し

て、最初の判決が言い渡されていた。

にもかかわらず、バーミンガムに住む33歳の被告は、その判決を無視し、闘



犬用犬ピットブルテリアと一台の犬訓練用踏み車を所有。5年間の犬所有の資格剥奪に違反したことに對してバーミンガム治安裁判所は、5か月間の投獄という判決を言い渡した。そして、彼が元来受けていた犬の飼育に對する5年間の資格剥奪は、10年間に延長された。

2006年2月5日に、バーミンガムのアラムロックにあるキッチンショールームで開催されていた闘犬大会で致命的な傷を負った2頭の犬を置き去りにした。1頭は103もの傷を負い、もう一方は21の傷を負っていた。

見物人によって記録されていたこの闘犬大会は2時間以上続き、キッチンユニットと踏み車で作られた間に合わせの闘犬場の周辺に26人もの男が集まって見物していた。一般市民の通報で警察が大会進行中に闘犬を発見した。

RSPCA の特別オペレーションユニットのチーフ査察官の話：「犬を所有し、各々を引き裂くよう訓練するというような事は、我々の社会で存在する場所はない。RSPCA はこういった人々を見つけ出し、裁判所に彼らを突き出すためにできることは何でもするつもりです」

16. 子犬を殴った罪で15年間動物飼育禁止命令



2009年、ケンブリッジシャーに住む男性2人は16週齢の子犬を殴り、打撲傷を与え、骨折したまま放置したことに対して判決を言い渡された。

スタンフォードに住む20歳の被告は罪を認めた。彼は21週間の投獄、執行猶予12か月という判決を受け、さらに15年間の動物飼育禁止、120時間の無報酬労働、700ポンドの訴訟費用の支払いを命令された。

同じく被告である、バストンに住む18歳の被告は子犬を叩いていないと否定したが、有罪と判明した。彼もまた、15年間の動物飼育禁止、80時間の無報酬労働、250ポンドの訴訟費用の支払いを命じられた。

グラントハムの治安判事は、警察が、心配した近所からの通報を受けた後、どのようにその子犬、ミンティーを、スタンフォードの所有者から救出したかを審問した。裁判所は、警官たちが、後ろ脚に怪我を負い、一方の脚は通常のほぼ2倍に膨れ上がった状態で食器棚に隠れて縮こまっていたその犬を見つけた経過を審問した。

獣医師の診断で、ミンティーは明らかに別々の機会に起こった骨盤と脚の骨折が発見された。加えて、彼の左の脚とお腹は腫れており、挫傷があった。獣医師が確認した彼の身体には、数週間以上もの間、殴られたり、蹴られたりしたことと一致する外傷があった。ミンティーはアーチャーという新し名前を貰って、新しい家庭に譲渡された。

17. みずぼらしい子猫を救助した



2009年、ハンプシャーに住む猫のブリーダーは、不必要な苦痛を引き起こし、また彼女が飼育している11匹の猫のニーズを満たすことを怠ったとして、5年間の猫の飼育禁止、135ポンドの罰金、そして200ポンドの裁判費用の支払いを命令された。アルダーショットに住む47歳の被告はペットショップに販売するために子猫を繁殖していたことを認めた。

アルダーショットの治安判事は、RSPCA 査察官が被告の家で猫を発見した状況を審問した。全てが FHV-1 (ネコヘルペス) に感染していた。この高い感染性のある疾病は、不調、発熱、くしゃみ、咳、眼脂や鼻汁、結膜炎そして角膜潰瘍を引き起こす。それは、苦しくて子猫には致命的にもなり得る。悲しいことに、それらの子猫のうちの1匹は亡くなった。

6匹のみずぼらしい子猫は保護され、そして21匹の猫が RSPCA の管理下に正式に引渡された。査察官は、感染している猫27匹全てを協会のミルグルックアニマルセンターに連れていったが、センターはいっぱいだったので、スタッフは猫たちをより長期的な猫舎に移すことができるようになるまでの住居を提供するために、夜通しで働いて、一時的な隔離の猫舎を建てた。

有難いことに、残った21匹はすべて治療を受け、新しい飼い主に譲渡された。

18. ショーの審判員が投獄

2009年、ダービシャーに住む84歳のポニーショーの審判員は、RSPCA が英国における馬のネグレクトの最も悪いケースの一つとして摘発し、4か月間投獄された。



その女性はウエルシュポニー&コブ協会の著名な会員であった。それにも拘わらず、RSPCA のスタッフはアシュボーンの年金生活の住まいにある荒廃した馬小屋の中に、ネグレクトの深刻な状況にある31頭のポニーと馬、4頭の犬を発見した。



ダービーの治安判事は、2フィートの高さに積もった排泄物の中で、絡みついたマット状の外皮、腐食した歯、呼吸器を患い、そしてその蹄は“アラジンの上靴”のよ

うにらせん状に捻じれ、ぞっとする程不格好であったやせ衰えたポニーを査察官が発見した状況について審問した。

蹄が26インチもの長さになっていた—それらは通常大体4インチの長さである—1頭の栗毛の牡馬は、安楽死させなければならなかった。

他の何頭かのポニーは、正しく歩く事ができず、数年もの間に亘って苦痛を強いられていたと判断された。

彼らは、汚れた水だけを飲み、糞と敷き藁不足で横になることもできなかった。

4匹のジャックラッセルテリアは歯肉に酷い疾病を患い、他にも健康問題を抱えているような状態で猫キャリーの中に詰められているのを発見された。1匹の犬は痛みのため、食餌をする時、鳴き声を上げていた。

悲しいことに、7頭の馬と2匹の犬は、獣医師のアドバイスにより安楽死処置を施した。

被告は、不必要な苦痛を与えた8つの訴因と動物福祉のニーズを満たさなかった5つの罪科についての罪を認めた。スタフォードシャー・ロセスターに住みやり馬の世話の手助けをしていた彼女の娘もまた、不必要な苦痛を与えたとする3つの訴因と動物福祉のニーズを満たさなかった2つの罪科を認めた。彼女は4か月の投獄、1年間の執行猶予の判決を言い渡され、200時間の無償労働を命令された。

2人とも生涯動物を飼育することを禁止された。24頭の馬と2匹の犬はRSPCAによって、譲渡された。

19. OAP は、自分の犬を飢えさせたことに対してタグを付けた

2009年、西ヨークシャーに住む年金受給者は、彼の犬に不必要な苦痛を与えたこと、そして犬の理想の体重の半分以下にして飢えさせたことを認め、生涯動物を飼育することを禁止された。バスターという名のラチャー犬はRSPCAが介入した時、かろうじて立っている状態だった。

ブラッドフォードの治安判事はまた、ブラッドフォードのムーア地区に住む、73歳の被告に対して、夜8時から朝8時までの4か月間外出禁止令、そしてタグを装着すること、そして250ポンドの訴訟費用の支払いの判決を言い

渡した。

RSPCA 査察官の話：「私が最初にバスターを見た時、恐ろしい状態であった。彼の体のほぼ全ての骨が彼の皮膚を通して認識でき、そして、彼はとても弱っていたので、自分の体重をほとんど支えることができなかった。もしあの時私たちが介入していなかったら、彼は生きてはいなかったでしょう」



獣医師の証言によると、バスターは少なくとも13週間の間、フードを与えられていなかったか、あるいは長い間全く不十分な餌しか与えられていなかった。彼は、入院時体重が11.5kgだったので、すぐに点滴をしなければならなかった。食餌を少しずつ増やして3ヵ月後、バスターの体重は標準の23.6kgに戻った。

査察官の話：「この犬は、飼い主の眼前でほぼ餓死するところであった。それでも飼い主は何もしなかった。ここで起こった事に何の言い訳も出来ない」

バスターは今は新しい飼い主に迎えられた。

20. ネグレクトに 10 年間の飼育禁止

2009年、ノッティンガムシャーに住む38歳の女性は、彼女が自分の2匹のネコ、ティガーとトリークルに対し、彼女が不在であったことで不必要な苦痛を与えたことを認め、マンスフィールドの治安判事によって、10年間の動物飼育禁止、220ポンドの訴訟費用の支払いを命じられた。

やせ衰えたティガーは被告の家の床で死んでいる状態で発見され、トリークルも大変やせ衰えて脱水していたが、生きていた。

獣医師はトリークルが少なくとも3週間は苦しんでいた

ろうと証言した。

トリークルは新しい家庭に迎えられた。

21. 子犬たちは骨と皮だけだった

2009年、グリニッチに住んでいる男性は、彼の家で犬達を飢えさせ、子犬に対し不必要な苦痛を与えたことに対する3つの罪と動物の福祉を確保しなかったことに対する1つの罪を認めた。

被告は「3頭の雑種の子犬は、以前自分の家に住んでいた他人の所有であったので、子犬に餌を与えるなど自分の仕事ではないと思っていた」とウールウィッチの治安判事に話した。彼はゆっくりと餓死するよう、子犬達をケージに閉じ込めて放置した。

RSPCA 査察官が到着した時、彼は4日前に朝食のシリアルを子犬達に与えたと話した。



査察官の話：「子犬達は本当に餓死寸前でした。彼らは骨と皮だけでした」約3ヵ月齢の子犬たちは回復し、RSPCAを通して素敵な新しい家族が見つかった。



被告は5年間の動物飼育を禁止され、18ヵ月間の保護監察と200時間の無償労働、3,250ポンドの訴訟費用支払いを言い渡された。

22. ハリーポッターフクロウの飼い主が収監された

2009年、映画「ハリーポッターと炎のゴブレット」に使われたフクロウのうちの何羽かが、RSPCAによって救助され、リハビリテーションを受けた。そして、その飼い主は起訴された。

西ヨークシャーに住む51歳の男性は、彼が不必要な苦痛を与えたとして9つの罪と、50羽以上の猛禽類や鶏に対する動物の福祉を確保しなかったことに対する8つの罪を認め、12週間収監され、5年間の全ての動物の飼育を禁止された。鳥の中には、映画のフィルムで使われたアメリカワシミミズクやベンガルワシミミズクも含まれていた。



裁判所は、RSPCA 査察官がどのようにウエイクフィールドの自治体のアニマルヘルス・インスペクターからウエイクフィールドにあるオールルドパークファームへ呼び出されたかを審問した。RSPCAの査察官が到着した時、彼らは20羽のハヤブサ、12羽のハリスホークス、11羽の鶏、6羽のフクロウそして5羽のコンドルが劣悪な状況の中にいた。何羽かは、自分の汚物にうまっており、また他のものは、やせ衰え、何羽かの鳥は脚の怪我を放置され苦しんでいた。

全ての鳥は、RSPCA に所属していない獣医師によって治療がなされた。獣医師はかれらの住環境が原因で動物たちが苦痛を受けたこと確認した。

悲しいことに、3羽は状態があまりに深刻なために、獣医師のアドバイスにより安楽死しなければならず、また別の1羽は状態が悪くて亡くなった。残った鳥たちはRSPCA に正式に引渡され、譲渡された。

審問の後の RSPCA 査察官の話：「これらの美しい鳥たちが自分の汚物の中で転げ回り、そして怪我をしたり病気になるまで状態を悪化させられていたというのは、とてもショッキングなことです。世話を怠り、故意に無視をすれば、動物たちに本当に悲惨な生活を引き起こすということ以外は何もありません」

23. 汚物の中で飼育されていたペットたち

2009年、RSPCA が“ホーダー”と称していた西ヨークシャーに在住の一人の女性は、1羽のウサギと1匹のモ

ルモットに対して不必要な苦痛を与えたとして有罪となった。

24歳の被告は彼女の自宅に多数の動物を飼育していたが、RSPCAはウサギとモルモットが最も被害を受けやすい状態であると感じた。

RSPCA 査察官は「被告の近所の一人からの情報の提供に従い、被告の家を訪問して、不潔で完全に不適切な環境で動物が飼育されているのを発見した」とブラッドフォードの治安判事に話した。

ペットは、彼らが直立することができないほどの狭苦しい箱に入れられ、しっかりとしたドアでそれら全体を閉じ、光も空気もまったく入らない状態で飼育されていた。

何度かの訪問といくつかのアドバイスの後、査察官はウサギとモルモットを別の場所に移した。被告はその動物たちの引き渡しを承認し、動物たちは RSPCA で世話された後、譲渡された。

ブラッドフォードの治安判事は、無罪であると申し立てていた被告に120時間の無償労働と553ポンドの訴訟費用の支払いを命じた。

24. 「訓練士」が競技を引退したグレイハンド犬を飢えさせた

2009年、何年もの間グレイハンドのレースに出場し、犬の所有もして、訓練士としても知られているグロースタシャーに住む男性は、彼の犬に対し、適切な食餌と新鮮な水を与えることを怠ったために、生涯動物を飼育することを禁止された。

サーセンセスターに住む50歳の被告は、18か月間の保護監察と18か月間の社会奉仕、100時間の無償労働、さらに500ポンドの裁判費用の支払いを命じられた。

チェルトナムの治安判事は、どのように以前レースに出



場していたグレイハンドのタラが被告の家のそばでよろよろ歩いている所を見つかり、動物病院に連れて行かれ、直ちに点滴処置されたのかを審問した。タラはひどく脱水しており彼女の理想体重の2分の1以下の体重であった。獣医師は彼女が数週間に亘って不十分な食餌のため苦しんでいたであろうと言った。

被告はタラを3か月前に譲渡したと主張し、無罪であると抗弁した。しかし、何人かの証人 - タラを見ていた被告の集合住宅に住む職人たちも含む - が被告に反対する証言をするために裁判所に来て、彼の無罪の主張は有罪へと転じた。

減刑を求めるため、被告は彼が経済的問題を抱え、不景気に苦しんでいたと言った。

タラの写真

は判事に配られ、裁判長は「画像を見ることは私たちも実際に病気にさせられるようだ」と言った。

タラは引退グレイハンドトラストによって世話をされ、そこですぐに回復し、被告が所有していたもう1頭の競技グレイハンドと一緒に新しい家族が見つかった。



25. 生涯の禁止命令

2009年、イルクストンに住む42歳の夫と34歳の妻は、彼らの6か月齢の仔猫、ティガーを痛み、怪我そして病気から護ることを怠った罪で、生涯動物を飼育することを禁止された。

ダービーの治安判事は、ティガーが5つもの怪我 - 股関節骨折を含む - を負っていたことについて審問した。その怪我はあたかも交通事故が原因のようなものだったが、ティガーは室内飼育だった。

無罪を主張していた夫婦は、それぞれ訴訟費用として250ポンドの支払いを命じられ、夫は12か月間の保護監察、妻は180時間の無報酬労働を命じられた。ティガーは譲渡された。

26. 夫婦が RSPCA のアドバイスを無視

2009年、ダービーシャーのひと組の夫婦は、彼らの2頭の犬に対して、不必要な苦痛を与えたことを認め、生涯に亘る金魚以外のすべての動物の飼育禁止を言い渡された。

30歳の夫と23歳の妻は、さらに各々200時間の社会奉仕と500ポンドの訴訟費用の支払いを命じられた。

ダービーの治安判事はデーモン（ジャーマン・シェパード・クロス）がその夫婦の家の裏手にある、床が糞と尿で



覆われていた檻で発見された状況を審問した。

デーモンには食餌、水、寝床が全くなかった。シャヌック（ハスキータイプの犬）は、短い鎖で外に繋がれているのを発見された。シャヌックは移動できないように窓も閉められた中に閉じ込められている状態であった。

シャヌックは座ることはできたけれども、鎖が短か過ぎて横になることはできなかった。彼には、水、避難場所そして食餌は与えられていなかった。

RSPCA 査察官は犬の飼い主に、ペットに対しての適切なケア方法をアドバイスしていたが、1か月後、同意のもとに再査察に行った際、状態が明らかに悪化しているのを確認した。

査察官の話：「動物福祉法はペットが実際に苦しむ前に、彼らの生活を向上するための飼い主への手助けを我々がすることを認めている。つまり、私たちは事が起こった時に起訴するというためだけでなく、動物の苦痛を防ぐために存在しているのです」

2頭の犬は、RSPCA によって新しい家族のもとに譲渡された。

27. 女性の飼っていた35匹のペットが救出された

2009年、サフォークに住む一人の女性は、11匹のネコ、7羽の雌鶏、2羽のウサギ、2匹のモルモット、1羽のオカメインコ、2羽のセキセイインコ、4匹のハムスター、2匹のラットそして4匹のマウスに対して必要な福祉の対処を怠った罪を認め、2年間のすべての動物の飼育禁止を言い渡された。



ニューマーケットに住む36歳の被告は「適切な食餌と見合った環境を35匹の動物に与えていた」と怠慢を否定した。動物たちは警察官によって、被告の前の住所から移され、RSPCA で世話されている。

RSPCA 査察官は、4羽の雌鶏が生活していた外の小屋は全く換気がされておらず、動物や鳥の多くが非常に劣悪な状態で生きていたとウイスベクの治安判事に話した。1匹のマウスは2匹の他のマウスの死体と共に汚れたガラスのケージの中で発見され、また9匹の猫は床が猫の尿と糞だらけの寝室で発見された。

動物たちは水や食餌のないまま、少なくとも48時間の間放置されていた。動物のほとんどは現在、RSPCA によって新しい家族のもとに譲渡された。

28. 今や馬たちは回復した

2009年、西ヨークシャーに住む一人の女性は、3頭の馬に不必要な苦痛を与えたことを認め、生涯の馬飼育禁止を言い渡された。

ブラッドフォードの治安判事は、街に住む24歳の被告がトングにあるレイクスファームにいかに劣悪な状態で馬

たちを放置していたかを審問した。

RSPCA 査察官が馬たちを発見した時、彼らは、削瘦、ねじれた蹄、肺気腫そして皮膚の感染症を含む沢山の健康を害した状態で苦しんでいた。全ての馬は体が排泄物で厚く覆われ、劣悪な環境にいた。彼らが数か月の間苦しんでいたのは明白であった。



被告はまた、200時間の社会奉仕、2年間の保護監察そして300ポンドの訴訟費用の支払いを言い渡された。

この事例の馬たちは、正式に RSPCA に渡され、十分な回復の後、新しい飼い主のもとに迎えられた。

29. 生涯飼育禁止命令違反で執行猶予取り消し

2009年、ダービーに住む34歳の女性は、動物飼育の生涯禁止命令の違反を認め、2年間の執行猶予中であつたが、その執行猶予を取り消され、10週間の投獄の判決を言い渡された。彼女はさらに、10週間の夜間外出禁止命令と989ポンドの訴訟費用の支払いを命ぜられた。姓が変わった被告は、以前、ウサギを苦しめたという理由で2006年に飼育禁止命令を受けていた。しかし、2009年の1月に、彼女は家で1匹の猫を飼育しているのを発見された。猫は RSPCA に渡され、新しい家族のもとに譲渡された。



30. 男はさっさと引っ越したが、後に犬が残された

2009年、サフォークに住む男性は、彼の14歳になるスパニエル・アルフィに不必要な苦痛を与えたことを認め、3年間のすべての動物飼育禁止命令、315ポンドの罰金、そして729ポンドの訴訟費用の支払いを命ぜられた。

ベリー・セントエドモンドの治安判事は、52歳の被告がアルフィを後に残して、新住所に彼の荷物を運び出した状況を審問した。3日後、土地管理人が、衰弱、脱水して非常に痩せている犬を発見した。

RSPCA 査察官は急いで犬を近くの獣医に連れていき、犬は救命救急の医療を受け、幸運にも完全に回復した。

査察官の話：「この事例で最悪なことは、被告人が犬を置き去りにした場所から僅かハーフマイルの場所に住んでいながら、犬に飲み水を与えるために帰ることさえもしなかったことです。アルフィはもし見つけられなかったら、死んでいたでしょう。しかし生きていたということでは、彼は水と食餌がなかったことで、3日以上もの間苦しんだということです」

彼は病院の看護師の中の一人の母親に引き取られた。彼女の話：「アルフィはとても愛くるしく忠実な犬です。私の他の2頭の犬と2匹の猫ともとてもうまくやっています。けれども、彼は耳が聞こえません。だから私たちは外に散歩に出る時は、身ぶりの言葉にたよっています。さらに、彼は暗闇が嫌いなので私は彼のために毎晩明かりを点けっぱなしにしているの。そうすれば、彼は絶対的に満足ですね。彼は扉が閉まるというのも好きではないのです。犬たちも古い記憶が突然誘発されるような状況になるというのは人間と同じであると私は思っています」

付 録

英国動物福祉法2006第51条により任命された動物査察官が、動物に対する責任者に改善指導を行うときに使用する様式（英国環境食料地域省作成）

動物福祉法 2006, 第 10 (1) 条 改善勧告

官庁印

第一部

固有参照番号：

日付：

A _____ 殿（勧告を受けた人物の氏名）	C 飼い主（異なる場合）
B 住所：	D 飼い主の住所（明らかな場合）

第二部

動物の責任者が、良い飼養管理に必要とされる、全ての状況における適切な動物のニーズの保障に必要な手段を講じなければ、動物福祉法 2006（以下「法」）第 9 条に違反することになる。法における動物のニーズには、以下のものが含まれる：

- 適切な環境に対するニーズ
- 適切な食餌に対するニーズ
- 通常の行動パターンを表現するニーズ
- 必要であれば、他の動物と一緒にもしくは隔離した生活環境に対するニーズ
- 痛み、苦しみ、怪我及び病気から保護されるニーズ

第三部

法の第 51 条により任命された動物査察官である私、（ ）は、法の第 10(1) 条に基づき、この勧告の第一部の A 欄に記入した人物に対して勧告をする。下記の動物に対して、法の第 9(1) 条が遵守されていないという意見をここに表明する。

動物の詳細（適切であれば、特定の場所を含めること）（種、数、性別、個体識別番号、他）

.....
.....
.....
.....
.....
.....

法の第 9(1) が、以下の形で遵守されていないと思われる：

.....
.....
.....
.....
.....

第四部

法の第9(1) 条を遵守するために、第五部で明記した期間までに、以下の手段が講じられなければならないと思われる：

.....
.....
.....
.....
.....

上記と同じ効果をもたらす手段を講じることも可能である。法を遵守するために同等の効果をもたらす手段があると考えられる場合、その旨を査察官に相談すること。

第五部

第四部に明記された手段は以下の期間までに講じられなければならない：

時分： _____ 日付： _____

上記の日時までには第四部に明記された手段を講じなかった場合、法の第 9(1) 条のもと起訴される場合もある。

起訴された場合、以下の罰則が科せられる可能性がある。

● £5,000 以下の罰金及び・または

● 6 か月以下の懲役

(i) この勧告の原因となった不遵守または (ii) その不遵守の継続に対しての、法第 9(1) 条違反の刑事訴訟は、第五部において明記された期間前に行われることはない。第五部において明記された期間前に本勧告において明記された手段が講じられれば、(i) この勧告の原因となった不遵守または (ii) 勧告に明記された手段が講じられる以前の、その不遵守の継続に対する、法第 9(1) 条違反の刑事訴訟は行われない。

署名：	正式な住所：
氏名(活字)：	
日付：	
時分： 午前・午後	電話番号：

署名(受理者)： _____

氏名(活字)： _____